



Q 一本木バイパス開通は

A 平成22年度まで延長へ

角掛邦彦 議員
(春緑クラブ)



▲工期が延長となった一本木バイパス

Q1

①22年度に延長される理由での村の対応は。

- ②今後の用地交渉および工事日程は。
- ③村における一本木バイパスの位置付けは(優先順位とその理由は)。
- ④開通までの交通安全対策および道路維持補修での対応は。

A1

①土地取得に難航していること、大型構造物「橋梁」建設に時間及び経費が要することです。延長期間が4年間という事態の重要性を考え、県に対し早期の供用開始を要望し問題の解決に尽力します。

②土地取得を19年度頃まで、橋梁そ

の他の工事はその後3年程度で完成したいとしている。

- ③本村の骨格道路のひとつで、道路管理者に対し、効果的な判断材料を提供するのが第一目的として、予算事情・事業手法等に応じた要望活動を展開してまいりました。県では総合評価を4段階中3番目の「B」としている。村はこれを評価しつつ、地域の声を要望してまいります。
- ④住宅密集地の道路及び現状は把握しており、県に対し危険箇所等の情報を提供しております。交通量や道路構造の改善措置は非常に困難で、現行により対応したいと考えております。

新旧最終処分場の環境調査は

Q2

①最終処分場の維持費と能力は。

- ②再処理の進捗状況は。
- ③環境調査結果は。
- ④旧最終処分場の管理状況は。

A2

①年間500〜600万円を推移しております。埋立期間を15年間として当初計画されました。溶融炉施設稼働後は、溶融飛灰だけの埋立となり、1/10の量で延命化を図っております。

- ②埋立量2万2,660tに対し、2年間で971tにとどまり、掘り起こしにはかなりの年数が要し抜本的対策が必要と考えております。
- ③地下水及び周辺の河川による水質調査並びに溶融施設の環境調査結果は、基準値以下となっております。
- ④周辺環境調査の結果について、今後公表してまいります。焼却灰約1000tを溶融処理し、2年間のモニタリングを経て、廃止届を提出し閉鎖する計画です。今後も水質等の調査は実施してまいります。